

進化型実務家教員 養成プログラム

VOL.22

NEWS LETTER

TEEP

進化型実務家教員
養成プログラム

NEWS LETTER

VOL.22

発行者 TEEPコンソーシアム実施委員会 事務局 名古屋市立大学教務企画室内 〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
発行日 2021年12月1日 連絡先 E-mail: teep_office@sec.nagoya-cu.ac.jp

高度化・複雑化した社会の動向や最先端の技術等を分かりやすく解説し、教育できる高度専門人材「進化型実務家教員」を養成するプログラム「TEEP」の2021年度基本コースが修了しました。さまざまな業界・業種での豊富な実務経験を持つ受講生たちは、半年間のコースを終えて何を学び、何を身につけたのでしょうか。受講生有志による座談会から振り返ります。

(司会：名古屋市立大学大学院経済学研究科教授／TEEP実施委員長 鵜飼宏成)

実務家教員としての「あり方」を学びあった6ヵ月

— TEEP基本コース 受講生座談会 —

多様な背景を持つ受講生

—— まずは皆さんがTEEPを受講した動機や、受講前に持っていた問題意識を聞かせてください。そして、受講後にそれがどう変わったかも簡単に教えてくださいいただけますか。

Aさん 自分のキャリアについて考え始めた時、読んでいた本にTEEPが紹介されていました。教育に関する講座を受けておくと、退職後に独立して講演をする時にも役立つと。独立は考えていませんが、何かを伝えるための素養は身につけたいと思いました。

受講してみると、実務経験が長いとか、独立しただけで講演が依頼されることなどあり得ないと気づきました(笑)。身につけた経験や知識を体系立てて言語化・理論化しなければ、講義も講演もできませんよね。TEEPでは受講前の期待をはるかに超えた気づきや学びがありました。

Bさん 私は普段から母校の大学院のゼミに参加することが多いのですが、メンバーの役に立つ発言ができていたのだろうか、という疑問を抱いていました。TEEPの中の「研究指導論」に興味を持って受講し始

めたのですが、自分が修士課程にいた時よりも、「研究」の意義や方法を明確に捉えられるようになったと感じています。

Cさん 長年勤めた会社を退職して、これまでやってきた仕事を若い人にどう伝えられるかを試したいと思って受講しました。講義を通じて教授法はもちろん、私自身のこれからのキャリアや、働く上で大切にしたいことを発見できたのが大きな収穫でした。

Dさん 私は大学職員です。大学は今、大きな変化の中にあるのですが、TEEPを通して視野を広げ、まずは自分に何ができるのかを明らかにしたいと思っていました。受講して自分の強みと今後の課題の両方が明確になりました。

Eさん 私も実務家教員になりたいというよりは、論理的に話すスキルを得たいとか、会社の経営者として最新の知識を応用した事例を知りたいといったことが受講の動機でした。受講生の中には大学院で論文を書いた経験がある方もおられ、すでに理論立てて説明することに長けていて、すごいなと尊敬しました。

Fさん 私はガス会社で震災時にインフラの復旧の現場を経験し、企業のBCPの作成支援など「レジリエン

Eさん 経営者として「人を大切にする経営」をしている企業の魅力を伝え、規模や知名度だけでなく広い視野を持って企業を選べる学生を育成したい。学生と共に企業訪問を行うなど、共に成長していきたいです。

Fさん 「レジリエンス経営」の第一人者となるべく、修士課程に進み、研究を進め具体的なメソッドの確立を目指したいです。中小企業診断士として実務に携わりながら、研究の成果を学会や診断士協会、大学や商工会などで広く発表していきたいと思います。

Gさん 今後も引き続き行政職員として住民の役に立てよう務めていきたい。自身の経験を基に調査・研究を進め、自治体職員になるためにはどんな学習をしておくべきかを伝えられるようになります。

Hさん 経験を体系化、データ化し客観的に伝えるとともに、学生が実践と教科書に書かれている理論のつながりに気づくよう導く教員でありたい。他者を受け入れ理解することと、万人に分かる言葉で説明することで、多職種や多様な個性を持つ学生と丁寧に関わっていきたい。

Iさん ①臨床②研究③教育の3つの軸足で立てる教員でありたい。臨床で得た知見を言語化・理論化・モデル化し、論文にまとめたい。教え方の工夫やブラッシュアップも重ねていきたいです。

Jさん ブランディングとマーケティングの分野の知見をタイムリーに体系化し、産学連携で新たな価値を生み出す教員でありたい。業界の再先端の実務と研究活動をどう両立させていくかが課題です。先生方とも相談しながら試行錯誤していきたいと思います。

—— 今後のTEEPに対する期待や、改善すべき点があれば教えてください。

Cさん 今日の座談会でお聞きした、受講の動機などは初回の講義でお聞きしたかったかな。(笑) 受講生同士がより親近感を持って交流できたように思います。



Eさん 期間中はコロナ禍で難しかったのですが、本当は一回くらいは皆さんとリアルで懇親会をしたかったですね。

Dさん 受講生は全員社会人ですから、仕事との両立が大きなハードルになります。どの時期に、どれくらいの予習が必要か、課題にどれくらいの時間を割く必要があるかの見通しを事前に示してもらえると、受講期間中の業務量の調整がしやすくなると思いました。

Bさん たしかに仕事をしながらの受講は大変でした。しかし、厳しい環境でこそ自分の力がついていく実感もありました。何より多様な経験を持つ皆さんと一緒に学べたことが、本当に良かったと思います。

—— いただいたご意見は次期のTEEPにいかしてまいります。この半年間を通じて、皆さんはご自身の経験を振り返り、確実に表現力を高めてもらえました。TEEPも、基本コースを終えた皆さんも今が“出発点”だと思います。今後も共にキャリアを模索していく仲間であり続けたいと思います。ありがとうございました。

受講者情報

※実務経験(経験年数)

- Aさん：製造企業(約35年)
- Bさん：不動産管理会社(約20年)
- Cさん：製薬企業(約30年)
- Dさん：高等教育機関(約25年)
- Eさん：広告企業(約35年)
- Fさん：インフラ系企業(約30年)
- Gさん：行政機関(約30年)
- Hさん：医療機関(約30年)
- Iさん：福祉機関(約25年)
- Jさん：広告企業(約35年)



2022年1月に「2022年度基本コース受講生」を募集いたします。具体的な募集方法については、Webサイトにのご案内させていただきます。 <https://teep-consortium.jp/>



TEEP コンソーシアム

中核校：名古屋市立大学
連携校：岐阜薬科大学 高知県立大学 中京大学



TEEP コンソーシアム

中核校：名古屋市立大学
連携校：岐阜薬科大学 高知県立大学 中京大学

ス経営」の促進に関わりたいと考え中小企業診断士の資格を取りました。TEEPでは「経営実務」「減災」のテーマを扱うとあり、自分にピッタリの講座だとすぐに出願しました。防災に関わる企画を立てる演習もあり、TEEPで学んだことがすでに今の仕事にきています。

Gさん 私は公務員です。仕事の上で不十分だと思っていた「調査」「研究」「論理的に考える力」をつけたいと考えていました。大学でゲスト講師として登壇させていただくこともあり、もっと学生さんへ伝える力をつけたいとも思っていました。TEEPではディスカッションやお互いの模擬授業を見ることで、他の受講生との学びあいの機会があったことが良かったです。

Hさん 看護管理者の仕事をしています。TEEPでは、学ぼうとする人たちが何を期待しているのかを、自分から積極的に関わって知っていくことや、自分の伝えたいことをしっかり言葉にして伝えることで、学生さんのモチベーションを上げられると知ることができました。

講義と実践の両面で力をつける

—— TEEPの中で特に印象に残っている講義や演習はありますか。

Aさん 何と言っても「多職種連携PBL演習」です。自分の子どもよりも若い大学生の皆さんの考えをお聞きでき、大変刺激を受けました。私も負けてられない、もっと勉強しなければと強く感じましたね。

Bさん 私もPBL演習です。おとなしかった学生さんたちがプロジェクトの後半には積極的に発言するようになり、最終的にグループで一つの成果物を完成させたのには感動しました。「次世代エネルギーを考える」というテーマも素晴らしく、自分自身も大いに学ぶ機会になりました。

Fさん PBL演習では議論を活性化させるための技術を学べたのも良かったです。また、以前に勤めていた会社で取り組んでいたのは主に「低炭素化」でしたが、今や社会が目指すべきは「脱炭素」だと気づかされ、私も必死で調べて勉強しました。

Eさん オンラインでワークショップをするのは初めての経験でした。今ではTEEPで学んだ手法を、仕事のリモートでのコミュニケーションにいかしています。

Cさん 私は模擬講義です。「もう自分が授業をするの

か」と焦りましたが、やってみると楽しくて。授業の準備をしながら、自分の経験から他者に伝えるべきことが見えてきたと同時に、知識の足りなさや、もっと学ばなければならないこともよく分かりました。

Gさん 他の受講生の模擬授業を受けるのも本当に面白く、参考になりました。自分の考えを「5分で話してください」というトレーニングや、全くの異業種の方に自分の専門分野について説明する経験は、伝え方の勉強にもなりました。

Hさん 私はプログラミングを体験したことが印象に残っています。教わった通りにやってみると、全く未経験だった自分にもできて楽しかったです。普段使っている電子カルテもこういう考え方でできているんだと分かりました。

Dさん eラーニングの動画コンテンツの内容も大変参考になりました。先生方にはこれからの大学が目指していくべき姿を明快に解説していただき、大学職員としても勇気づけられました。

企業でも役立つ実務家教員としての力

—— TEEPを受講して、自分自身が変化したと感じられることは何でしょうか。

Dさん 模擬講義では自らの経験を言葉にする困難にぶつかり、「キャリア開発シート」を書く時には「これから自分はどうになりたいのか?」に悩みました。インプットとアウトプットを繰り返すカリキュラムを通して、自分の足りない部分に気づけたと思います。

Bさん 「自分に何ができるか」も見えてきましたよね。自分の場合は先生方との面談や「マルチサイクル・デザイン※」によって、営業や企画、チームリーダーとしての役割に強みを発見できました。今後はこれらを伝える方法を考えていきたいです。

実は今日、職員の採用説明会がありました。学生からの「新卒社員に求められる力は何ですか」という質問に「上司から指示を受けた時、自分は本当にその指示の内容を適切に理解できているか?と考えられる、論理的思考と批判的検証力が必要だ」と答えることができました。具体的な事例と抽象的な概念を結び付けて説明する言葉がずっと出てくるようになったのは、TEEPを受講した成果だと思います。

Aさん 私はこれまでも会社では部下を指導する立場でしたが、伝えるべきことを言語化することも、体系

立てて説明する力も不足していたことに気づき、謙虚になったことが大きな変化です。

日本の企業では「カン(勘)」や「コツ」と呼ばれる暗黙知は見えて覚えるもの、真似るものとされ、長く言葉にされないできました。しかし異分野の人と協働したり、外国人社員と一緒に働くことが求められる時代には、やはり言語化しないと通用しません。大手の製造業でも技能工・多能工の持つ暗黙知を形式化するためにビッグデータを活用する動きがありますが、あらゆる教育の場にも同じことが求められているのでしょう。

—— TEEPは実務家教員養成のプログラムですが、皆さんのお話をお聞きしていると教育力はもちろん、多様な学びがあったように感じます。実務家として、今のお仕事に応用できそうなTEEPでの経験が他にもあれば教えてください。

Eさん 「実務領域診断カルテ」や「マルチサイクル・デザイン※」はそのまま社員と一緒に使っていきたいと感じました。「キャリア開発シート」を用いて学んだ、ありがたい未来の姿から逆算してプロセスを組み立てていく「バックキャストिंग」の考え方も、新事業を考える時に活用しています。

Bさん PBL演習の経験は、社内の課題解決にも役立つのではないのでしょうか。部署を超えて様々な社員とともに具体的な改善方法を考えていく手法を学べたと感じます。

Fさん PBL演習をスムーズに動かすために、最初に個人で書き込むワークシートも参考になりました。社内研修でも、受講者の考えを整理するためのツールが必要だと気づきました。

Cさん ビジネス経験を言語化・理論化して伝えられるようになれば、学生に対しても社会人に対しても同じように価値が発揮されると思います。たとえ教壇に立たなくても、実務家教員としての資質を高めることは、自身のコンピテンシーを高めること

ですから、TEEPで学んだことは企業でもいかされるのではないのでしょうか。

—— 「TEEP」の2021年度基本コースを学び、修了生が目指す進化型実務家教員像とはどういうものですか。

Aさん 企業で経験した工程の整流化や業務のノウハウの蓄積方法などを言語化・体系化して部下や学生たちに普遍的な考え方として伝えていける実務家教員でありたいと思います。学ぶ人の気づきを引き出す、ファシリテーターとしての役割に努めたいです。

Bさん 「利益以上に追い求める指標がある社会」を推進できる教員でありたいですね。特にNPS (Net Promoter Score 顧客ロイヤルティを測る指標) の活用を教えたい。学びを深化させるため、TEEPの専門コースの受講や博士後期課程への進学も検討しています。

Cさん 学生が大学で学んだことを企業でいかすための橋渡しができる、教養と実務のスキマを埋められる教員でありたい。人材育成の理論を早くから学生に伝えることで、学生が早く即戦力となれるとともに、ミスマッチによる早期離職も防ぐことができればと考えています。

Dさん 介護・福祉の現場の人材育成に関する課題解決やコンサルテーションができる教員でありたい。軸足は現場に置き、現場で起こったことを体系化・言語化し、必要な時にタイムリーに現場や学生に指導できることを目指したいと思っています。

実務領域診断カルテにおけるコンピテンシー

